

水口岡山城跡国史跡指定記念シンポジウム

近世甲賀の起点 水口岡山城 ～現代に続く礎～



平成29年5月28日（日）甲賀市碧水ホール

主催 甲賀市教育委員会

共催 甲賀市郷土史連絡協議会 一般社団法人水口岡山城の会

水口岡山城跡国史跡指定記念シンポジウム

「近世甲賀の起点 水口岡山城～現代に続く礎～」

日 程

開催日 平成 29 年(2017 年)5 月 28 日(日)

会 場 甲賀市碧水ホール

13 : 00 開場・受付開始

13 : 30～ 主催者挨拶

13 : 40～14 : 25 基調講演 1

「水口岡山城の魅力 ～歴史的価値と活用の可能性～」

中井 均 (滋賀県立大学教授)

14 : 25～15 : 10 基調講演 2

「水口の礎を築いた城下町と宿場町」

山村 亜希 (京都大学准教授)

15 : 10～15 : 30 〈休憩〉

15 : 20～16 : 30 シンポジウム

「近世甲賀の起点 水口岡山城～現代に続く礎～」

コーディネーター 杉原 和雄 (甲賀市文化財保護審議会会長)

パネラー 中井 均 (滋賀県立大学教授)

山村 亜希 (京都大学准教授)

小山 剛

(一般社団法人水口岡山城の会代表理事)

小谷 徳彦 (甲賀市教育委員会)

目 次

基調講演 1	「水口岡山城の魅力 ～歴史的価値と活用の可能性～」・・・・・・・・	1
	中井 均（滋賀県立大学教授）	
基調講演 2	「水口の礎を築いた城下町と宿場町」・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	山村 亜希（京都大学准教授）	
参考資料	「水口岡山城跡基礎データ」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12

水口岡山城の魅力 ～歴史的価値と活用の可能性～

中井 均(滋賀県立大学)

◆はじめに

- ・祝！国史跡水口岡山城跡

平成 28 年 11 月 18 日に文化審議会(文化財分科会)での審議、議決 ⇒ 文部科学大臣に答申【平成 29 年 2 月 9 日の官報告示により国史跡に指定】

※滋賀県の中・近世城館跡としては 10 番目となる【甲賀郡中惣遺跡群(寺前城跡、村雨城跡、新宮城跡、新宮支城跡、竹中城跡)、安土城跡(特別史跡)、彦根城跡(特別史跡)、京極氏遺跡(京極氏城館跡・弥高寺)、鎌刃城跡、北近江城館跡群(下坂氏館跡・三田村氏館跡)、小谷城跡、清水山城館跡、玄蕃尾城跡(中尾山城)】

- ・指定解説文(詳細説明) ⇒ 「豊臣政権により甲賀支配と東国の押えのために築城された。保存状態が良好な織豊系城郭であり、出土遺物から築城や整備に伴う資材調達の様子が具体的に分かり、当時の築城の在り方を知るうえでも重要である。」

◆歴史的価値 ～甲賀世界から統一政権の世界へ～

- ・誰も知らなかった城跡 ⇒ 水口と言えば水口城(碧水城)【水口城跡こそが甲賀のシンボル】
- ・昭和 47 年 2 月 23 日 ⇒ 水口城跡が滋賀県指定史跡となる【平成 3 年 11 月には水口城資料館が開館】
資料館は旧本丸乾櫓の古材を用いて建てられる ⇒ しかし、現在資料館の建つ場所は本丸外柵形であり、櫓はなく番所のみが存在【史実に基づく復元ではない】
※城をシンボルとして望んだ結果 ⇒ 復元されるのは天守や櫓
- ・甲賀の中世的世界 ⇒ 同名中から甲賀郡中惣へ【武士たちの共和的社会】
ほぼ同じ構造の城館が築かれる ⇒ 一辺が 30～50m の方形単郭型の城館【甲賀 1 郡に約 300 もの城館が築かれる】
小規模城館 ⇒ あくまでも平面が小規模であって周囲を巡る土塁の高さは 8m に達する【全国屈指の巨大な土塁！】
しかし、他地域に見られる守護、戦国大名、有力国人の巨大な山城は出現しない

- ・天正 13 年(1585)の水口岡山築城 ⇒ 豊臣政権による築城【甲賀世界の終焉】
それまで城が築かれることのなかった立地 ⇒ 村落背後の丘陵先端部から郡内を見渡せる山頂が選ばれた
甲賀型の方形単郭構造から本丸を頂点とした序列の明確な曲輪配置の城郭へ当時の最先端技術を導入した築城 ⇒ 石垣・瓦・礎石建物(天守)という 3 つの要素【織豊系城郭】
- ・なぜ水口が選ばれたのか ⇒ 天正 10 年[本能寺の変]、11 年[大坂築城]、12 年[小牧・長久手の戦い]【対東国の前線基地として】
三河・尾張【徳川家康】、関東【北条氏】
東国を意識した秀吉による大坂の緩衝地帯としての近江の設定 ⇒ 中山道【佐和山城：堀尾吉晴】、東海道【水口岡山城：中村一氏】、下街道【八幡山城：羽柴秀次(田中吉政)】、港湾【大津城(天正 14 年)：浅野長政、長浜城：山内一豊】
- ・織豊系城郭研究の進展 ⇒ それまで水口城(碧水城)しか注目されなかったところからの転換につながる【本物の城跡が残されている点も重要】

◆活用の可能性

- ・水口のまちのルーツ ⇒ 水口岡山城が築かれたからこそ城下町が形成された【水口岡山城こそが市民の先祖そのもの】
- ・愛される遺跡としての城跡 ⇒ 郷土の誇り【活用しやすい】
- ・まちづくりとしての城跡
保存か破壊か ⇒ 杵築城(大分県杵築市)【中学校の建設予定地が藩主御殿】
発掘調査後城跡を毀して中学を建設する予定であったが、杵築の町のおこりとなる城跡を教育の場として毀して教育ができるのかという問題意識
中学を別の場所で建設し、城跡は国史跡に指定して残す方向へ
殿村遺跡(長野県松本市)【中学校の建設予定地が中世の居館】
学都松本が遺跡を破壊して中学校を建てることができるとか
杵築市と同様に中学を別の場所で建設して、遺跡を残した
- ・史跡指定後 ⇒ 保存活用計画の策定【水口岡山城跡をどう保存し、活用していくのかの基本的な方針】
まず、しなければならないこと ⇒ 樹木の整理(伐採)【城跡を仰ぎ見る、城跡からの眺望】
彦根城、浜松城、月山富田城などで実施
登城道の整備、サイン(説明板)の整備
そして発掘調査で確認した石垣をどう整備するのか ⇒ 見せるのか、地中に保存しておくのか【一番難しい問題】

さらには見せる場合は崩れたまま見せるのか、石垣を復元するのか ⇒ 肥前名護屋城(崩れたままの石垣を見せる：城割の痕跡という歴史的事象)と佐敷花岡城(崩れた石垣を復元)

- 城跡を利用した様々なイベント ⇒ 滋賀県内では鎌刃城跡(米原市)を中心に実施されている中世山城琵琶湖一周のろし駅伝や、鎌刃城まつり【国史跡指定が契機】※2017/04/06 に続日本 100 名城に選定される
県外の事例では岐阜県可児市で毎年「山城にいこう in 可児」を開催 ⇒ 可児市山城連絡協議会の設立(平成 28 年 4 月)【可児市に残るいくつかの山城を活用】
- 地元、企業、行政、研究者の連携 ⇒ 企業【地域の経営は地域に還元することも重要】
観音寺城跡では地元企業と一緒に樹木の伐採作業が進められている
水口では ⇒ 水口岡山城の会が活動

◆おわりに

- これからの保存と活用 ⇒ 復元はいらない【どのような城であったかは VR や CG を作成すればよい】
ガイドンス施設で映像を見た後に、現地で想像することが大切
本物が残されている ⇒ 石垣、土塁、堀切といった本物の遺構の迫力【復元で台無しにすることは許されない】
厳しいようだが、過ちを繰り返さない ⇒ 水口城の事例【誰しものが大手外枡形に二重櫓があったと思い込んでしまうことの危険性】
- 水口岡山城だけに偏るのでは決してない ⇒ 甲賀の中世【甲賀型城館】、織豊期の城郭【水口岡山城】、江戸時代【水口御茶屋と水口城】
いずれもが重要で欠けてはならない ⇒ 城跡から中世、近世の歴史が追える稀有な地域
- 甲賀での連携 ⇒ 多羅尾代官所の公開【日本遺産とのコラボも期待できる】
- 郷土の誇りとしての城跡 ⇒ 歴史教育の場として【郷土愛の醸造】

◀MEMO▶

平成 29 (2017) 年 5 月 28 日 (日)
水口岡山城国史跡指定記念シンポジウム

水口の礎を築いた城下町と宿場町

山村亜希 (京都大学)

I 水口岡山城と城下町

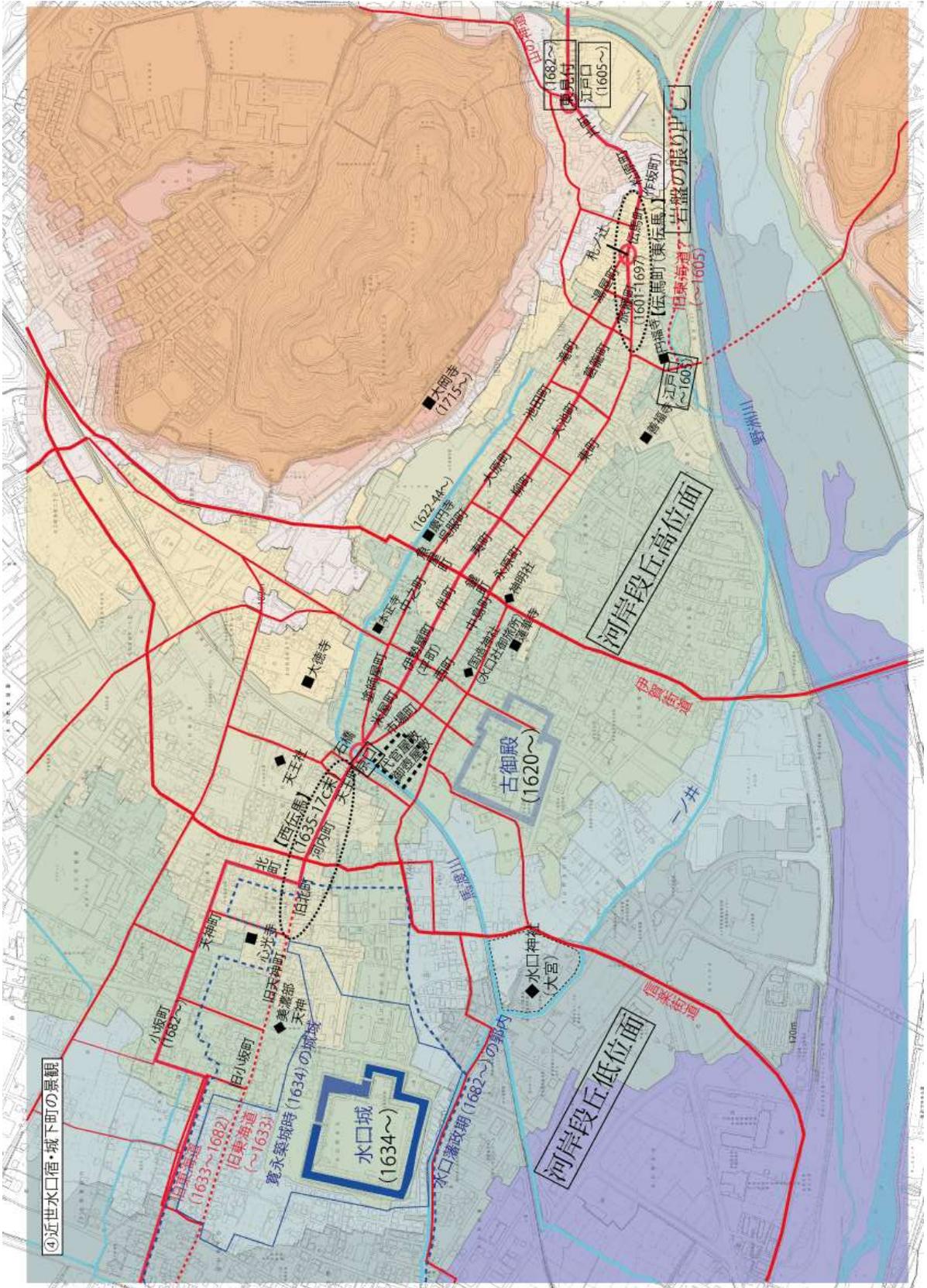
- (1) 中世水口の原景
- (2) 城下町のかたち
- (3) 城下町の立地と意図

II 宿場町の形成

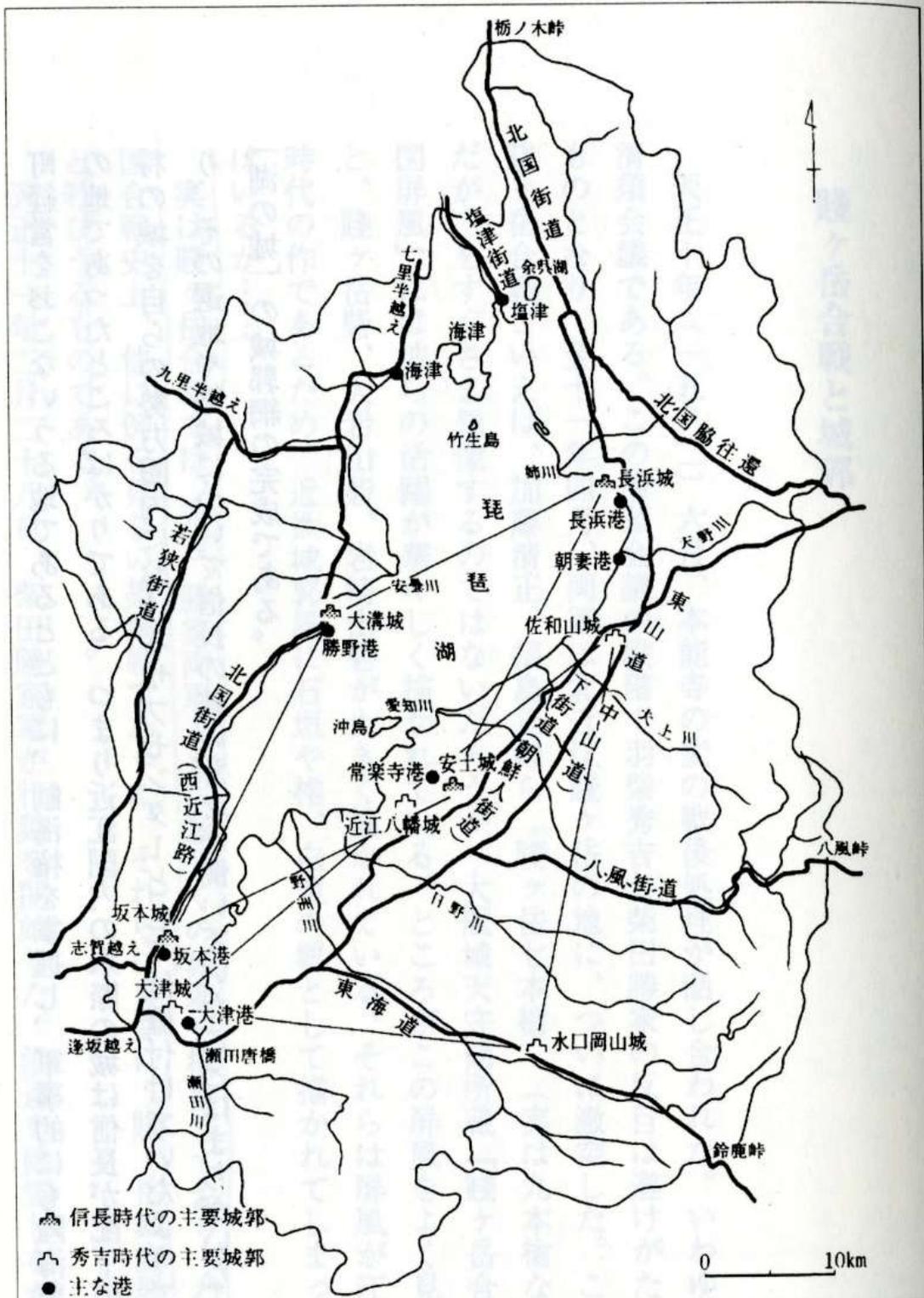
- (1) 紡錘型の三筋町
- (2) 宿場町の拡大
- (3) もう一つの水口城下町

III 城下町と宿場町

- (1) 城がつくる町
- (2) 街道のもたらず町
- (3) 都市の核とは何か



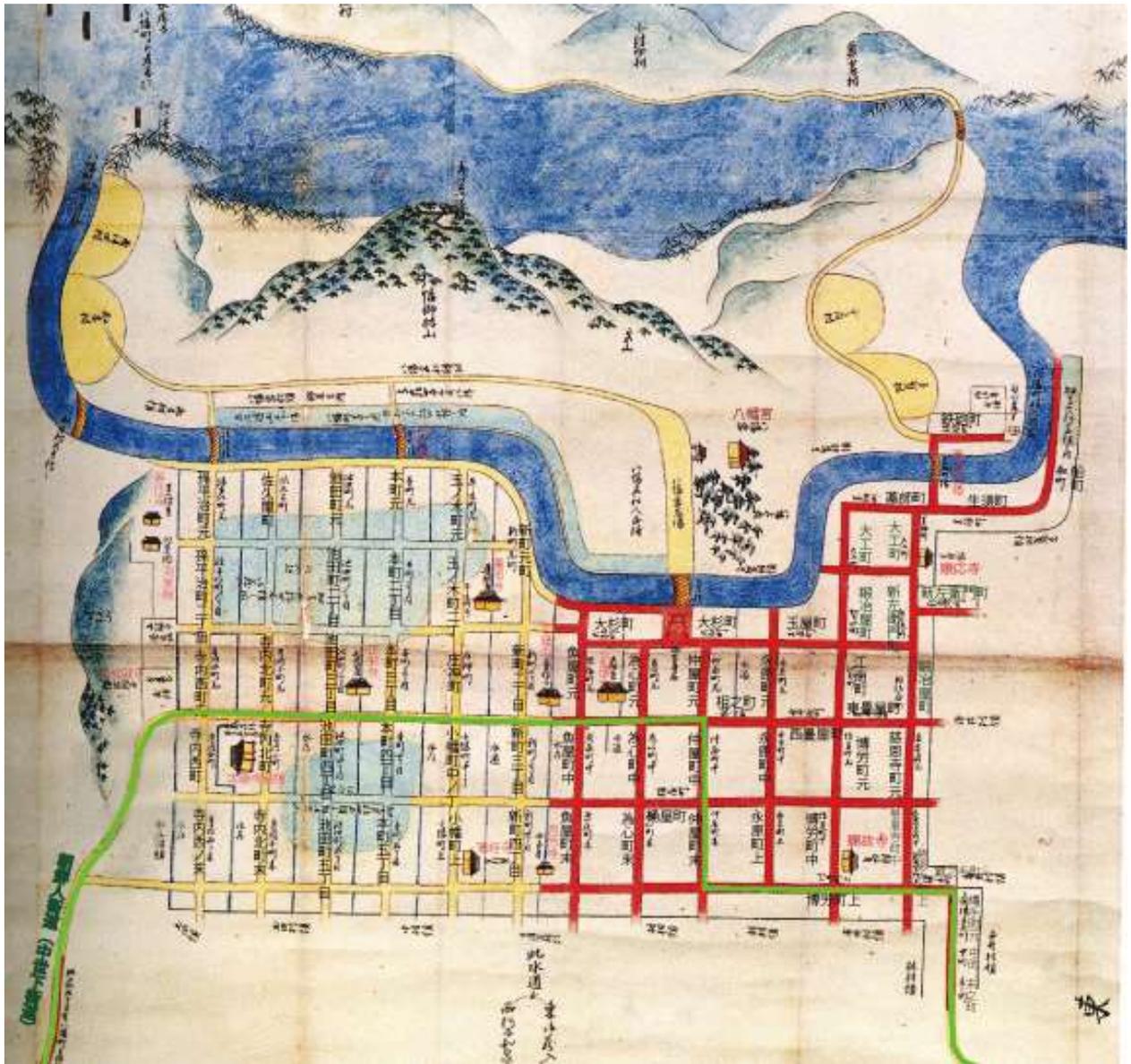
④近世水口宿・城下町



信長・秀吉の近江における主要城郭配置図

⑤信長・秀吉の城郭配置

(中井均『近江の城—城が語る戦国史—』サンライズ出版、1997より)



⑥近州蒲生郡八幡町惣絵図 元禄 11 (1698) 年
 (近江八幡市史編集委員会編『近江八幡の歴史 1 街道と町なみ』近江八幡市、2004)

水口岡山城関係年表

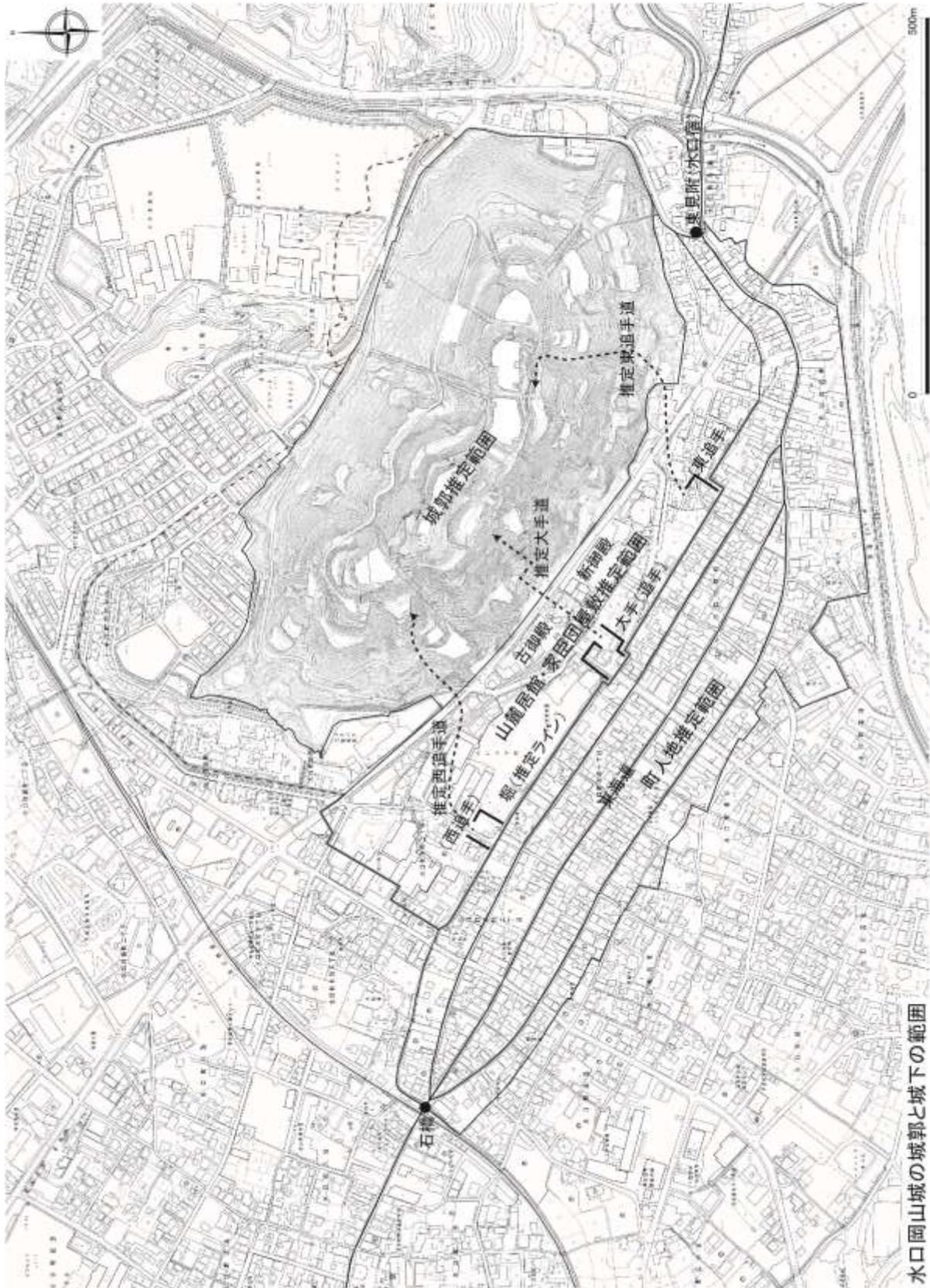
年代	水口岡山城・城主・水口	政治的動向	城郭の築城・改修
古代	白鳳14(674or685)6/18 古城山上に大岡寺が開かれ、盛時は6～16坊を数えるという 天仁2(1109)2/25 朝廷の追捕を受けた源義綱、大岡寺で出家		
中世	承応2(1223)4/4 「海道記」の筆者、甲賀の「大岳」の「柴ノ宿」に宿泊。応永10(1403)10/ 室町幕府將軍足利義満、水口を通過。同21(1414)12/ 同足利義持、水口に宿泊。永享5(1433)3/ 同足利義教、水口に宿泊。大永7(1527)3/4 連歌師宗長、水口の町並と私関の様子を日記に記す		
天正11 1583			9/ 大坂城築城開始
天正12 1584		4/ 小牧長久手の戦い始まる 11/ 羽柴秀吉と織田信雄和睦	
天正13 1585	5/ 中村一氏、水口入封（6万石）。水口岡山城築城開始。山上の大岡寺を山下に移す。矢川寺の堂塔を毀ち築城に利用 7/ 中村一氏、式部少輔任官	3/ 紀伊平定 4/ 秀吉、甲賀衆を改易 6/ 四国平定 7/ 秀吉、従一位・関白任官 閏8/18 秀吉、羽柴家勢力圏内の大規模国替え実施	閏8/22 羽柴秀次、近江43万石拝領。うち23万石を「宿老共」に宛がう。堀尾吉晴、佐和山入封。八幡山城築城開始 9/3 羽柴秀長、大和郡山入封 11/29 堀尾吉晴、佐和山城改修開始
天正14 1586		10/ 徳川家康、大坂城で秀吉に臣下の礼をとる 12/19 秀吉、太政大臣任官。以後「豊臣」に改姓か	2/ 聚楽第造営開始 大坂城二ノ丸普請開始
天正15 1587	この年 中村一氏、京都留守役	5/ 九州平定	
天正16 1588		4/14 後陽成天皇、聚楽第に行幸	この年 宇喜多秀家、備前岡山城築城開始
天正17 1589			3/ 毛利輝元、安芸広島城築城開始
天正18 1590	3/ 中村一氏、小田原攻めに際し北条氏の支城山中城を攻略 7/ 中村一氏、駿府府中へ移封（14万石）。増田長盛、水口入封（3万石、のち5万石）	7/ 関東平定 この年 奥州平定	7/ 秀次、尾張・北伊勢へ移封 京極高次、八幡山へ移封 堀尾吉晴、遠江浜松へ移封
天正19 1591	この年 増田長盛・長束正家、近江国の検地を実施	8/ 秀吉、「唐入り」宣告 12/18 秀吉、太閤を称する	4/ 石田三成、佐和山に入る 肥前名護屋城普請開始
文禄元 1592	6/3 増田長盛、石田三成・大谷吉継とともに朝鮮へ渡海	4/ 朝鮮出兵始まる	8/ 指月伏見城築城開始
文禄2 1593	1/23 増田長盛、朝鮮より帰国し肥前名護屋の長束正家に情勢を報告	8/3 豊臣秀頼誕生	
文禄3 1594			この年 指月伏見城改修開始
文禄4 1595	6/8 増田長盛、大和郡山へ移封（20万石）。長束正家、水口入封（5万石のち12万石）、従四位下・侍従任官 この年以降 大溝城殿主を水口へ運び、本丸に東櫓を建てる	7/ 関白豊臣秀次失脚、高野山にて自害	8/ 石田三成、佐和山城主となる この年 八幡山城・大溝城廃城
慶長元 1596			閏7/ 伏見城完成するも大地震で倒壊。木幡山伏見城築城開始
慶長2 1597		1/ 慶長の役。朝鮮への再出兵	この年 伏見城完成
慶長3 1598		8/18 秀吉死去 10/8 朝鮮出兵終わる	
慶長4 1599			
慶長5 1600	6/18 長束正家、徳川家康暗殺を計画するも未遂に終わる 9/30 池田長吉・亀井茲矩が水口岡山城を囲んで開城させ、城を接收。美濃部茂盛ら、城の守衛にあたる	6/16 徳川家康、会津攻めのため大坂城を発つ 9/15 関ヶ原の戦い	7/ 伏見城落城 9/ 佐和山城落城
慶長6 1601	1/ 水口宿成立		1/ 井伊直政、佐和山入封
慶長7 1602	9/ 水口で慶長検地実施		
慶長8 1603		2/ 家康、征夷大将軍任官	
慶長9 1604			7/ 井伊直継、彦根城築城開始（完成後に佐和山城廃城）
元和6 1620	この年 水口御茶屋（古御殿）が築かれたという	この年 徳川和子、後水尾天皇の中宮として入内	
寛永10 1633	5/ 將軍徳川家光、水口城（碧水城）築城を決定		
寛永11 1634	8/以前 水口城完成。家光、帰国時に休泊		

遺構記号の凡例

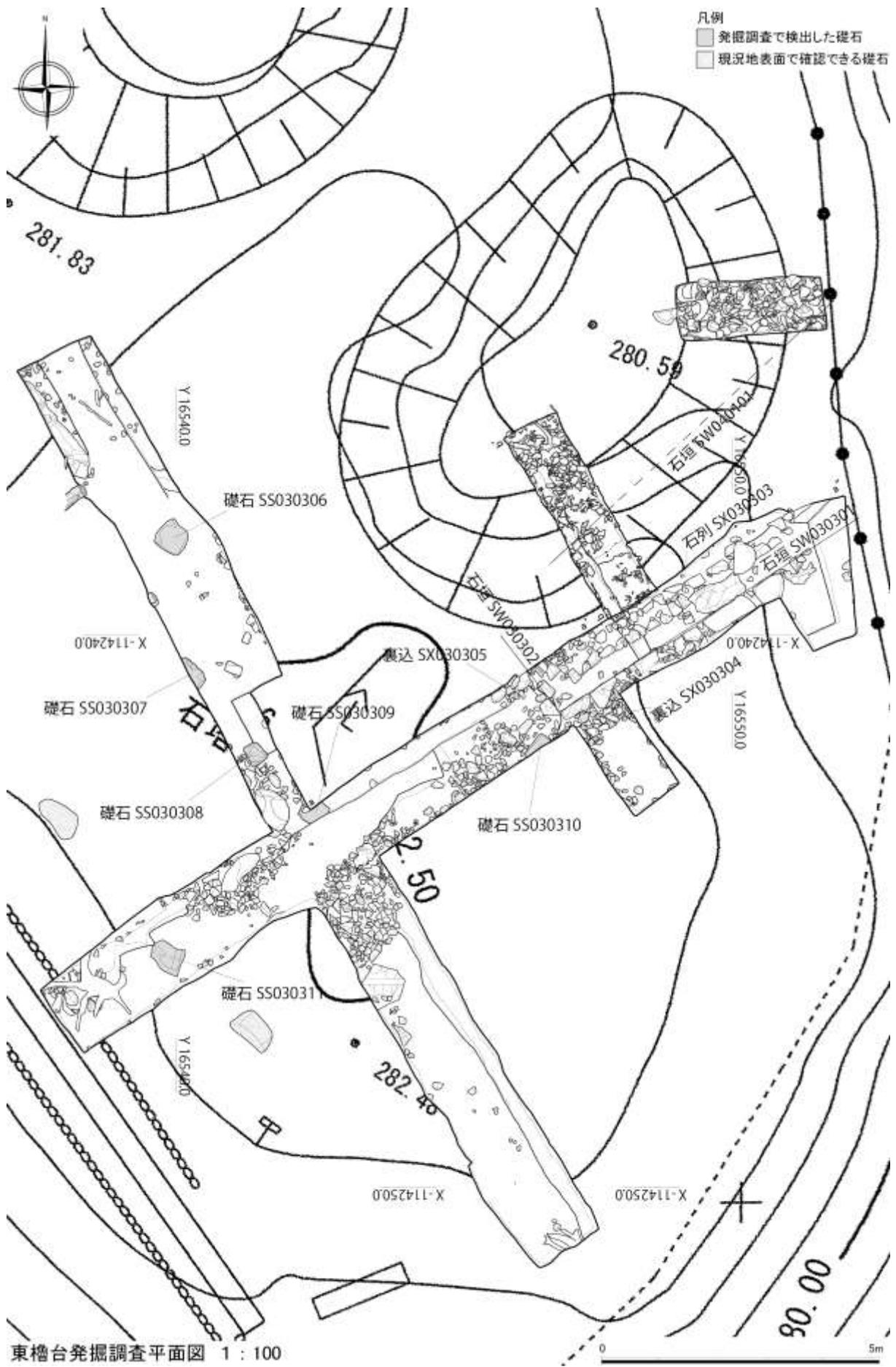
遺構名	記号
曲輪	数字
櫓台	a
虎口	b
堀切・塀跡	c
土壇・塀土壇	d
石垣	e



水口岡山城跡 城郭遺構概要図 1 : 4,000



水口岡山城の城郭と城下の範囲

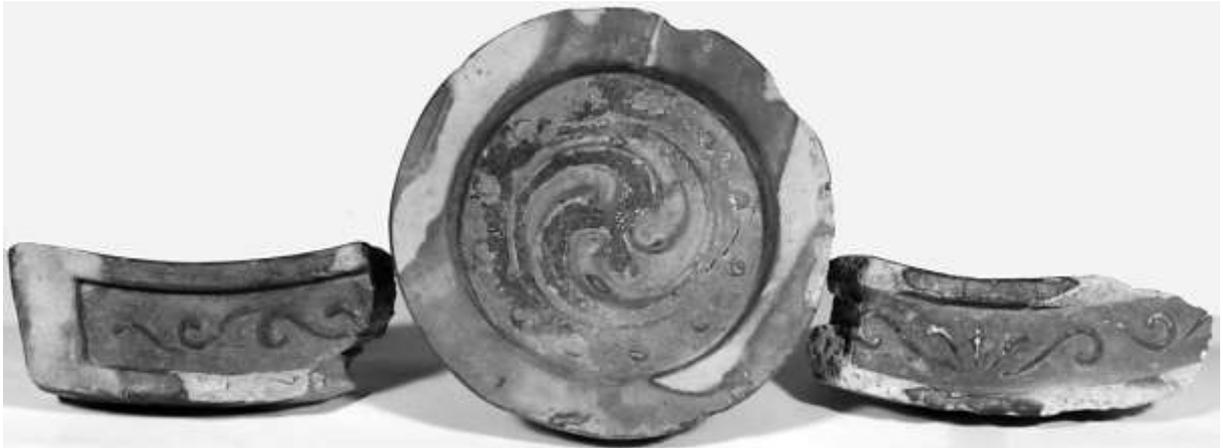




東櫓台で発掘した石垣（石垣 SW030301・030302）



西櫓台で発掘した石階段（石階段 SX030201）



大溝城から運ばれた軒丸瓦・軒平瓦



長束正家の段階で生産された軒丸瓦・軒平瓦



寺院から転用された軒丸瓦・軒平瓦（中村一氏段階）



昭和41年に撮影された水口岡山城跡



平成22年に撮影された水口岡山城跡

◀MEMO▶

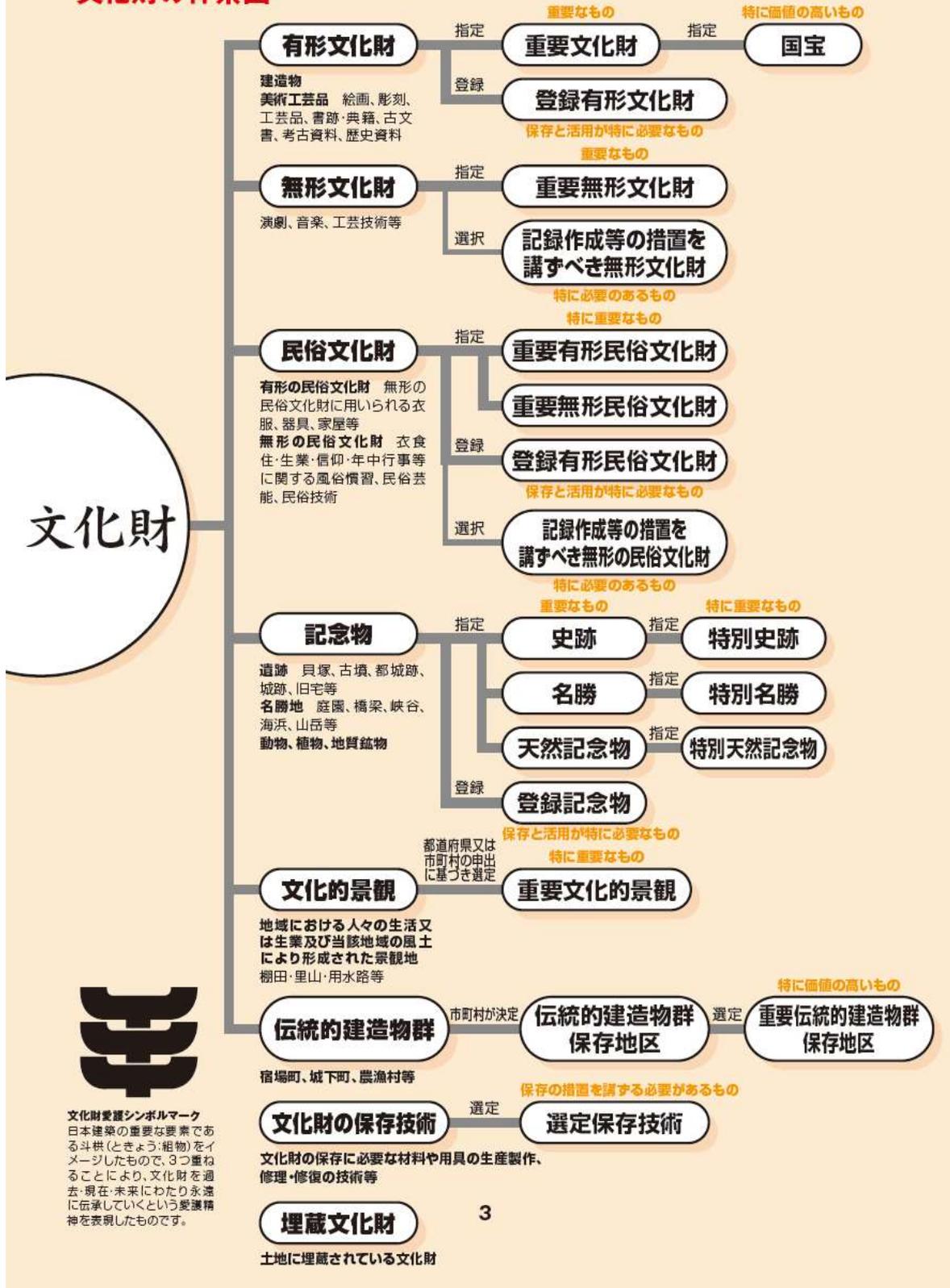
1 参考：文化財保護の考え方（史跡・遺跡を中心として）

1 保存	2 調査 研究	3 公開 再生 活用
<p>文化財をまず残す（残っていないければ元も子もない） 後世に伝える 文化財保護法・条例 指定文化財と未指定文化財 史跡等指定文化財 学術的価値と文化財的価値 管理 修理 文化財を保護するための普及啓発、教育</p> <p>もともと文化財は所有者と地域住民が永年にわたり守ってきたものであり、地域に根ざしている。 現在は行政(国、地方公共団体)や専門家も地域に協力して保存を図っている</p>	<p>文化財の調査 研究 市民、所有者 行政、博物館、 研究所、大学</p> <p>それぞれの視点からオープンに研究を展開する 発掘調査(埋蔵文化財)</p> <p>日本では主として行政が実施している 遺構・遺物の整理、復元、調査、研究 文献等の調査、研究 調査報告書の刊行</p>	<p>遺跡・史跡等の整備、復元 楽しい博物館 体験学習や出土品の活用等含む 市民が楽しむ広場 市民参加 特に子供の参加</p> <p>学校教育、生涯学習</p> <p>まちづくりと施政方針 地域住民と行政の共同 文化的な町づくりとボランティア</p> <p>観光 歴史とロマン、景観、食・グルメ、ショッピング、広場などが必要 個性的な商店街の経営</p> <p>文化財を観光の核としながら単独でなくネットワーク化を図る 身近にあり、わかりやすく楽しむことができるのが文化財</p>

(2017年5月 杉原和雄 作成)

2 文化財の種類 (文化庁HPから)

文化財の体系図



文化財愛護シンボルマーク
日本建築の重要な要素である斗拱(ときょう:粗物)をイメージしたもので、3つ重ねることにより、文化財を過去・現在・未来にわたり永遠に伝承していくという愛護精神を表現したものです。

水口岡山城跡国史跡指定記念シンポジウム
「近世甲賀の起点 水口岡山城～現代に続く礎～」
資料集

平成29年5月28日発行

編集発行 甲賀市教育委員会
滋賀県甲賀市甲南町野田810